



奥羽山公園展望台から見た立山連峰

富山県南東部に位置し、北アルプスの一座として広く知られる立山。市街地からも見えるその美しい姿は、時代を超えて人々の心を魅了し、古くから崇拝の対象とされてきた。そんな立山を舞台に発展した、「立山信仰」の歴史をたどる。

知る、歩く。 信仰の地、 立山へ

立山は北アルプス北部、富山県南東部に位置し、その山域には多種多様な高山植物や野生動物が生息している。室室周辺では国の特別天然記念物のライチョウを間近に観察できるなど、豊かな自然と美しい風景をもとめて国内外から多くの人が訪れる。ちなみに、立山とは雄山・大汝山・富士ノ折立の総称である。

さて、立山周辺の地図を広げてみると、地名の多くに仏教用語が使われていることに気づく。たとえば、弥陀ヶ原の「弥陀」は阿弥陀仏を短くした呼び方だ。ほかにも、浄土山や地蔵谷、エンマ（閻魔）台などがある。このことから、その昔、立山は仏教的な意味合いの強い場所だったことがわかる。立山信仰の歴史については次のページで、富山県立立山博物館の館長、高野靖彦さんにわかりやすくまとめていただいた。

最後に、信仰の地として立山を知る上で大切な視点がある。それは、私たちが立山を見て美しいと感じるように昔の人々もまた、その姿に美しさや尊さを見いだしたのではないかということだ。

仏教が伝わるはるか昔から、人々は遠くそびえる立山の姿に魅了され、この山を舞台にさまざまな物語を紡いできた。その物語は今もなお人々によって受け継がれている。

知る

立山信仰はどのように広がっていったのか。
「立山信仰1300年ストーリー」と題して
立山の歴史を時代ごとに紹介します。



富山県「立山博物館」
館長 高野靖彦さん

たかの、やすひこ／富山立山
に関する山岳史を文庫社『立山』
の立場から研究する。著書に
『立山観光ヒストリー』（北日
本新聞社）などがある。

立山は畏怖の対象であり、
神が住む山だとされていた

奈良時代以前

富山平野から東側の立山連峰を眺めると、美しく気高い山々が屏風のように立ち並び、その雄大な連なりに感動します。越中国（現在の富山県）の人々は、山がもたらす豊かな水、森林や動植物などの生活の恵みに感謝してきました。他方で山は人知を超えた災害をもたらす畏怖なる存在でもありました。越中人にとって立山は「心の支えの山」であると言っていました。

立山が初めて登場する文献は、奈良時代に編纂された日本最古の和歌集である『万葉集』です。そこには「多知夜麻」と記されます。越中守（現在の富山県知事）大伴家持は表にそびえる立山の威容を仰ぎ、立山賦という長歌をつくり「すめ神（その国を守護する神）が領有している立山」と奈良の都人に紹介しています。奈良時代の立山は神が住む

山であり、禁足地のため遠くから拝む「遙拝信仰」が主流でした。

禁足地から修行の場所へ
仏教体系が持ち込まれた

平安～室町時代

平安時代、立山は仏教的な色彩が加わり、修行の場となりました。山岳行者が用いる錫杖、その先端を錫杖頭と呼びます。立山山域の大目岳と剣折で平安時代のもともみられる錫杖頭が明治時代に発見されています。山岳行者は立山山中の地獄谷の特異な景観を見て、仏教の經典に説かれる地獄が本当に立山にあると信じた。平安時代の仏教説話集には立山地獄にまつわる話が紹介されています。鎌倉時代には立山開山縁起が登場し、「類聚既抄」では狩人が山中で熊を射ると阿弥陀如来と化します。「伊呂波字類抄」では越中守の佐伯有若が逃けた鷹を追ひ、山中で射た熊が阿弥陀如来と化し、出家して慈興上人となり開山したとします。そして江戸時代には開山者

が有若の子・有頼となり、時代を経て内容が変遷していくのです。

民衆による登拝が始まり、
立山信仰は全国へ広まった

江戸時代

立山信仰は江戸時代に芦峯寺と岩峰寺の両集落の立山衆徒（僧侶）によって布教され、全国に広まりました。その際に立山曼荼羅という掛け軸式の宗教的な絵画を用いました。剣折から立山そして浄土山までの山々の範囲を描き、内容は①立山開山縁起、②立山地獄、③立山浄土、④立山神定名所、⑤布橋灌頂会の大きく5つのモチーフからなります。立山衆徒は、農作業が終わった冬から春先にかけて、檀那場（信者が集まる得意先）を訪れ、庄屋宅や寺院に立山曼荼羅を掛け、巧みな話術で立山の宗教世界を紹介しました。その折にお守りの札や薬などを販売し、自分の宿坊へ泊まるよう勧誘し、立山での道案内や便宜を図ることを約束しました。この活動により全国か

ら多くの男性が立山登拝に訪れ、幕末期には一夏に6～7千人という記録があります。江戸時代の登拝は山頂にある「御本社」の参拝が主目的でした。さらに立山・白山・富士山を巡る三神定も行なわれ、日本を代表する霊山となりました。

明治時代以降

明治維新期には、廃仏毀釈の風が立山にも襲いかかり、全国の諸霊山と同様にいくつかの堂舎が壊され、仏像仏具の散逸が進みました。この時期に立山信仰は衰退したとみられていましたが、近年の研究により信仰に基づく民衆の登拝は継続されていたことがわかってきました。そして戦後の大規模な開発により「立山黒部アルペンルート」が誕生し、室堂周辺や黒部ダムは山岳観光地として人気を博しています。今日ある立山の名声、その原点は立山信仰にあったと言えるのです。

歩く

立山信仰の歴史をもっと詳しく知りたいときは、
実際に足を運んで自分の目で確かめてみよう！
立山を語る上で外せない、一度は訪れておきたい場所を紹介します。



富山県「立山博物館」



↑展示館。立山をイメージした外観
①大目岳で発見された錫杖頭（国指定重要文化財、富山県「立山博物館」蔵）
②立山曼荼羅大仙坊A本（芦峯寺大仙坊蔵）

立山登拝の拠点であった芦峯寺に立つ博物館。立山の自然や歴史、文化を総合的に紹介している。「人間と自然とのかかわり方」をテーマに、錫杖頭や立山曼荼羅といった立山の文化財を展示する展示館や、布橋などの復元施設を含めた計11施設が広大な敷地に点在する。

● ☎ 076-481-1216 ● 開館時間：9時30分～17時
● 休館日：月曜（祝日は除く）、祝日の翌日、年末年始
● 観覧料：3施設セット券760円

室堂周辺・立山



一ノ越から雄山への道からは室堂方面がよく見える

信仰の舞台となったのが、富山県南東部に位置する立山だ。北アルプスの一峰でもあるため、多くの登山者が訪れる。主峰の雄山山頂には、雄山神社立山頂上峰本社が置かれている。室堂周辺を散策すれば、立山曼荼羅に描かれた池などを周辺に見ることができる。

雄山神社 芦峯中宮祈願殿



立山開山縁起にも登場する伊弉諾大神と天手力雄神を祭る神社。中宮祈願殿は、江戸時代に立山樺現社と呼ばれていて、芦峯寺の中核寺院である中宮寺の一部だった。

● ☎ 076-482-1545 ● 参拝時間：終日開放。無休 ● 拝観料：無料

立山芦峯 ふるさと交流館



芦峯寺集落の玄関口にあり、地域の歴史資料などを展示している。併設する「まんだら食堂」では、江戸時代に宿坊で提供されていた精進料理を味わえる（要予約）。

● ☎ 090-8269-9241 ● 開館時間：11～15時（14時30分ラストオーダー） ● 休館日：月・火曜、年末年始 ● 入館料：無料

雨晴海岸



奥の岩は「女岩」と呼ばれている

大伴家持が越中守として赴任した際にここを訪れ、歌の題材にしたといわれている。富山湾越しに雄大な立山の山並みを眺められる。JR水見線雨晴駅から徒歩約5分。

● ☎ 0766-20-1547（高岡市観光協会）

呉羽山公園展望台



天気の良い日には、奥岳や立山の山々を富山の市街地とセットで見渡せる絶好のビューポイント。富山県立バス富山市民俗民衆バス停から徒歩約20分。

● ☎ 076-443-2111（富山市民俗民衆バス） ● 開園時間：終日開放 ● 休園日：無休 ● 入園料：無料

